

テーマ	実施クラス	実施保育者名
サイエンス	5 歳児 にじ 組	田中

## ● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
散歩に行く機会が多いため、日常にある自然物や天気や普段から触れている環境である。そこから天気の変化や虹など現象や特徴について探究することで、色の変化や光のふしぎを感じ、興味関心を深められるようにする。	
活動スケジュール・活動内容	
4月	<p>戸外活動で訪れる公園で自然物を観察・探究する</p> <p>①植物や昆虫、公園には何がある？…ポケット図鑑を持参し、見つけたものを観察した。写真を撮ったり、持ち帰れるものは持ち帰り、更に深めていった。</p> <p>②見つけたもの、好きなものを共有する…観察して終わりではなく、オリジナル図鑑や地図として作成し、共有・伝え合った。</p>
5月	<p>戸外活動に影響のある天気について探究する</p> <p>①雲と雨…雲にいろいろな形や種類があることを知り、雨の発生原理を知った。</p> <p>②雨と雪…実験を行い、空気中に水があることを知った。別の実験にて、雪の結晶を作る実験を行った。原理について知り、変化していく様子の観察を行った。</p> <p>③虹の色…虹は何色かを想像し、実験にて虹を発生させてみた。観察し、虹の塗り絵を行った。</p> <p>④影について…いろいろな形の影を作り、どうやって思う形の影ができるか考え試してみた。できた影を観察した。</p>
6月	<p>先月探究した影について、深めていく</p> <p>①光と影…影が発生する原理について知った。懐中電灯を用いて、光の反射や影が発生する仕組みについて知った。</p> <p>②光の実験…光が反射する原理で、鏡を使った光のリレー遊びを通して光の反射について探究した。</p> <p>③光の反射、屈折について更に深める…コップに入れたストローが光の反射で見え方が変わる実験を行い、なぜ見え方が変わるのか考えた。</p> <p>④光と影に色はできる？…カラーセロファンと懐中電灯を用いて、光の色変化を楽しんだ。スタンドグラスの作成を行い、できあがった影や色について観察した。</p>

## ● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本、雲や虹の写真などを用意した。</p> <p>戸外活動にて自然物を調べる際のポケット図鑑と、持ち運べるサコッシュを用意。</p> <p>図鑑、地図作成用にクラフト用紙や絵の具、クレヨン、はさみ、セロテープ、製本テープなど。</p> <p>実験に用いるコップ、水、フェルト、懐中電灯、鏡、ストロー、カラーセロファン、アルミホイル、ペットボトルなど。</p>

## ● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・本活動では、雲の仕組みや特徴、雨が降る仕組みについて、写真や図を使った観察を通じて学んだ。</p> <p>・導入では、天気についての話を広げ、子どもたちの知識や疑問を引き出した。その後、さまざまな雲の写真を見ながら違いを考え、雲のでき方についてグループで意見を出し合った。</p> <p>・また、電気ポットとビニール袋を使った実験を行い、雲と雨の発生についてより実感をもって学ぶことができた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「この雲、ふわふわしてるね！」「こっちは細長いね！」「雲って空のどこからくるの？」など、子どもたち同士で意見を交換しながら、「こういう雲は雨が降るときにできるのかな？」と話し合う様子が見られた。</p> <p>・実験では、「袋が白くなった！」「湯気が集まると水になるんだね！」と驚きの声が上がった。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・「どうしてこの雲は高いところにあるのかな？」と問いかけ、子どもたちが自分で考える機会を作った。</p> <p>・結論を急がず、考えるプロセスを大切にされた。</p> <p>・実験時は安全に配慮しながら、子どもたちが自ら試せるようにサポートした。</p>

## ● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・実験が上手くいくかという結果に注目してしまいがちだが、本テーマである雲と雨に結び付けた観察ができるような問いを行ったことで、それぞれのチームでの実験結果の差がより天気への不思議さを広げるきっかけとなった。</p> <p>・予想を立てることが難しい子もいたが、子どもたち同士で意見を共有することで考えを深められた。</p> <p>・雲の写真を見比べることで、子どもたちが違いに気づき、興味をもちやすかった。</p> <p>・結果を見てすぐに納得するのではなく、「どうしてだろう？」と考え続ける時間をもっと作ると良いと感じた。</p>	<p>実際はつかむことのできない「雲」ですが、「ふわふわ」しているなどの、想像力を活かし実験へと繋げることができたようです。「天気」についても日々見上げたり、肌で感じたり、触れてみたり、視覚教材写真などで知識を得たりと、興味が広がりました。プラス興味を引き出す実験、観察へと繋がりました。答えや結論を急がず「考える」プロセスを大切にされたことで、この先への探究の道が広がることを楽しみにしています。</p>



テーマ	実施クラス	実施保育者名
たべもの	5 歳児 にじ 組	田中

## ● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
食べ物子どもたちにとって日々の生活の中で非常に身近な存在であり、興味をもっている。普段の生活で接している水、また野菜について、またそもそもなぜ食べるのかを探究する。	
活動スケジュール・活動内容	
7月	<p>生きる上で欠かせない水について探究する</p> <p>①水とは何か？…色やにおい、形などの観察。水の流れや変化(水・氷・湯気)について学んだ。 ②水の役割？…園内外で水のある場所を探し、探索マップを作った。水の使われ方や役割を考える。 ③水はどこからくる？…雨や川など自然の水について学び、水が循環(雨→川→海→雲→雨)していることを知った。 ④水がもしなかったら？…水の必要性、ないとどうなるか？、大切に使うにはどうするか？考えた。</p>
8月	<p>野菜そのもの、またどうやって育ち、どこを食べているのかを探究する</p> <p>①野菜って何？…さまざまな野菜に触れて観察し、色・におい・感触・形など、種類による違い、特徴を知った。 ②どこにできるの？…野菜がどのように育つ(土の中・上)かを考えた。共通点、違いは何かを考えた。 ③食べているのはどこ？…根や茎、葉、花など部位があり、食べているところはどこか、他は食べられないのか探究した。 ④野菜カードを作る…調べたことや知ったことをオリジナルの野菜カードにまとめ共有しあった。</p>
9月	<p>食べ物がどうやって手に届き、食べた後どうなるのかを探究する</p> <p>①なぜ食べる？…体のつくり、働きを知る。食べたごはんがどうなるのか、気持ちや体の変化を考えた。 ②食べ物の働き…体を動かす、体をつくるなど、食べ物の働きを知った。給食と絡め、体の中でどう動くのかを考えた。 ③どうやって手元に届く？…食べ物がどうやってできるか、手にするまでの生産過程について知った。 ④旅マップの作成…食べ物がどうやって作られ、運ばれ、手に届き、そして体内でどう動くのかのマップを作成した。</p>

## ● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本を用意した。 水の形について皿やコップ、袋などを用意。水の変化についてお湯や氷を用意した。 数種の野菜を用意し、細かく観察できるように虫眼鏡を用意。 食べ物がどこから来たのか、商品パッケージなど産地が分かるものを用意。またスーパーのチラシなど、どんなものがあり、どこから来たかを想像できるようにする。 野菜カードや旅マップ作成のためカードや模造紙を用意。</p>

## ● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、水はどのようなものか考え、「飲み物」「白、透明、水色」「味はしない」「海、川、浄水場」「いろんな形、形がない」など、こういった時に使うものか、見た時の印象などから水について考える発言していた。</p> <p>・水について、色、形、流れ、状態変化などをスロープや氷を使った遊びや色水遊びなどの体験を通じて探究を深めた。</p> <p>・水色と白の絵の具を溶かした色水、何も溶かしていない水で色を見比べて、水の色を考えて、その後海や湖の写真と見比べて何故青いのか考えた。</p> <p>・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有したり、発表したりした。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「雨とか雲も水で出来てるよね」 ・「水色っていうけど、コップの水は透明だね、何で？」 ・「水も氷もいろんな形で、形がないね」 ・氷を使ったカーリング遊びを行い、遊んでいく内に次第に溶けて水になる様子を観察して楽しんでいった。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！なんでそうなるんだろう？」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。</p> <p>・水色についてじっくり考えられるように、水色の海や湖などの写真を用意して、一緒になぜコップの水と色が異なるのかを考える時間を設けた。</p>

## ● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・水の流れを感じられるよう、一緒に牛乳パックでスロープを作り、複数回使用して遊んだことで、水への興味が高まった。</p> <p>・保育者が単純に答えを「教える」のではなく、子どもたちと「一緒に気づく・一緒に不思議がる」というスタンスで関わることが、探究的な学びの促進につながると感じた。</p> <p>・わくわく探求ラボで雨や雲に関する実験を行ったことを覚えていて、水に関して意見を出し合ったときにすぐに「雨」「雲」を連想して答える子がいて、以前の取り組みが活きているように感じた。</p>	<p>水とは「何」かを問いかけることについて色、感触、動き、飲み物自然物など壮大なテーマでしたが、色と感触流れを中心に活動の中、実験を含めた取り組みが子どもたちにとって、とてもわかりやすいものだと思います。写真などの視覚教材を取り入れた事で、わかりやすかったと思います。何故何、どうして、どのようにと、質問と合わせて、不思議という意識感覚も学びにつながったと思います。</p>



テーマ	実施クラス	実施保育者名
アート	5 歳児 にじ 組	田中

## ● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
近年注目されているSTEAM教育の中でも、特に子どもたちが日常生活の中で触れる機会が少ないアートを題材とすることで、「感じる」「考える」「伝える」経験を積み重ね、自分の意見をもつことの楽しさや相手の考えを受け入れる心を育むことを狙いとする。	
活動スケジュール・活動内容	
10月	<p>日常にあふれる色について知り、感じ方を探究する</p> <p>①色とは…色の原料から何色になるかを考え、絵の具や素材を用いて再現してみた。作った色から受ける印象を話し合った。</p> <p>②色の三原色と組み合わせ…三原色について知り、色水を使って混色を行った。明るさや濃さの変化を試した。</p> <p>③色の世界…色眼鏡を作成し、色眼鏡を通すことで見え方・感じ方が変わることを体感した。</p> <p>④虹色を作る…5色から、7色を作ってみた。実際に作った色で虹を描いた。</p>
11月	<p>錯覚、見え方の違いを体感する</p> <p>①何が見える?…錯視絵を用いて、見え方の違いを楽しんだ。立体はしごを作り、見え方の違いを体感した。</p> <p>②目の錯覚…トリックアートを観察し、長さや大きさが違って見えるが実際には同じである不思議を体感した。</p> <p>③見る向きで変わる絵…左右で見え方が変わることを体感し、実際に仕掛けアートを作成してみた。</p> <p>④片目での見え方…両目と片目で見比べながら見え方の違いを体感した。</p>
12月	<p>名画について知り、技法を知る</p> <p>①名画を知る…風景画や人物画、抽象画など、見比べて色や雰囲気、感じ方の違いを体感した。</p> <p>②技法を知る…絵画で使われていた技法を知り、実際にコラージュ作品を作ってみた。</p> <p>③表現について知る…太い線や細い線、色の重ね方などを名画から学び、実際にやってみた。作品と取り組んだ技法を共有した。</p>

## ● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本を用意した。</p> <p>色体感のため、色画用紙、色の原料写真、色見本、食紅(色水用)、カップ、スポイト、トイレトーパー芯、カラーセロファン、セロテープ、虹の見本絵、絵の具、パレット、筆など。</p> <p>錯視絵などの見本絵。長さや大きさ比べ用の素材(短冊など)。</p> <p>名画やイラストのカード。コラージュ用の素材(雑誌、英字新聞、パンフレット、写真、毛糸、モール、布の切れ端)、作成用の画用紙、ボンド、はさみ。</p>

## ● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>①色の原料に関するクイズ 赤、青、黄色などの色を作るにはどんな材料が使われているかクイズ形式で知る。</p> <p>②カラーセロファンを使ったメガネづくり 赤、青、黄色のカラーセロファンと画用紙を使って、メガネを作る。</p> <p>③色画用紙の色を絵の具で混色して作ってみよう 様々な色画用紙の色と近づくように絵の具を混ぜてみる。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤の原料はトウガラシ、リンゴ、青の原料は青い花など自由な発想で予想を楽しんでいた。</li> <li>・カラーセロファンの組み合わせによって、のぞいた時の色が異なることを楽しみ、保育者や友達のメガネにも興味を持っていた。「宇宙の色みたい」「レインボーに見える」など、自分なりの言葉で見える景色を言語化していた。</li> <li>・なかなか混色した色が、目指す色にならない時は「もっと白を入れたらいいかな」「灰色作るには何色を入れたらいい？」など友達で話し合っていた。</li> </ul> <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色の原料に関するクイズでは、一人ひとりが予想して楽しめるように、意見を発表しづらい様子の児を気にかけて、保育者との会話の中で、自分なりの予想ができるように促した。</li> <li>・色画用紙の色と作った色をよく見比べて、どの色を入れたらいいか考えることを楽しめるような声掛けを行った。</li> </ul>

## ● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・普段身の回りにあるものがどのような原料で着色されているか、それ自体を疑問に思う様子はなかったものの、クイズ形式で問いかけたことで、興味を深めることに繋がり、良かった。</p> <p>・元々絵の具を使うことを好む児が多く、今回の活動にも積極的に取り組み、自分なりに考えてながら混色を行っていた。予想通りの色になったり、思っていた色とは異なる色になってしまったりすること、そのものを楽しみ、また考えを巡らしていた。次月も、子どもたちが同様の活動を行いたい様子があれば、再度実施を検討したい。</p>	<p>肉眼で見ている色の世界に一つ色を加えると、どんな景色に映るのかとても、興味深く発見を急ぎ、メガネ作成に戸惑っていた場面もありますが、出来上がると不思議そうな表情で望遠鏡を覗いていました。カラフルな世界に、宇宙、自然。宝石の色に見えるの音があがりました。図鑑の岩石鉱物が人気なのとつながっていました。一人ひとりの絵具やパレットを喜び色の発見や探求へと繋がりました。色づくりは、見える感覚の違いも垣間見えました。</p>



テーマ	実施クラス	実施保育者名
おかね	5 歳児 にじ 組	田中

## ● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
「お金の価値」や「選択と判断」、「貯める・使う・分け合う」といった金融の基本的な概念を、遊びや実生活を通して体験的に探究することで、お金の仕組みや社会との繋がりへの理解を深める基盤を育むため。	
活動スケジュール・活動内容	
1月	<p>お金とは何か、また必要性や役割について知る</p> <p>①お金とはなにか…どんな場面で使っているかを考えた。物々交換から発生する不自由さからお金の必要性、役割を体感した。</p> <p>②お金ってどんな形…模擬貨幣を用いて色や形、重さ、数字の大小などを観察した。その上でオリジナル貨幣を考え、作ってみた。</p> <p>③お金の価値…模擬貨幣を用いてお店屋さんごっこを行い、買えたもの・買えなかったもの、なにを優先したのか、物の価値などについて考えた。</p> <p>④必要なものと欲しいもの…カレーを作るために、限られたお金で何をかうべきか？また、必要なもの・欲しいけど買わないものなどグループに分かれ考えた。</p>
2月	<p>お金の使い方を考え、体感する</p> <p>①お仕事とお金…先月の活動より、買えなかったものを買うには・お金を得るには、という視点でお仕事をして模擬通貨を得る体験をした。</p> <p>②貯めるって？…得たお金を使うか、貯めるかを考えた。貯めておくお財布を作った。</p> <p>③値段…同じような商品でも値段が違うことがあることを学び、値段の違いにある背景や、選択する理由などを考えた。</p> <p>④お仕事を考える…グループに分かれ、やってみたいお仕事を考え、必要なものを検討した。</p>
3月	<p>お仕事とその対価について考える</p> <p>①価格を考える…先月の活動より、考えたお仕事の価格について買いやすい価格・適正な価格について検討した。</p> <p>②お仕事の準備…考えたお仕事について、商品やお店の準備、提供サービスの案内など必要なものを準備した。</p> <p>③お仕事を通じ売買体験…前回準備した商品やサービスをもとにお店さんを展開し、お仕事をやる・対価を得るを体感した。</p> <p>④お金を分け合うことの体感…公園を例に、みんなでお金を分け合うことを学び、何があったら嬉しいか、みんなのお金の使い道を考えた。</p>

## ● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>模擬商品(複数)、模擬貨幣を用意した。</p> <p>オリジナル貨幣作成のため、画用紙、クレヨンや色鉛筆などを用意した。お店屋さんごっこ用に買い物かご、値札、商品カード、模擬レジ。</p> <p>お財布作成用の折り紙、マーカー。</p> <p>お仕事計画用の模造紙、筆記用具。</p> <p>公共施設イメージのため、見本写真。</p>

## ● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入として、お金に関する複数の議題を話し合い、お金とはそもそも何かを考えてから、活動の本題に入った。</p> <p>・お金がなかったらどうなるかという問いかけに「物々交換になる」と答える児がいたため、スムーズにわらしべ長者の読み聞かせに移った。</p> <p>・その後は、玩具のお金の観察、折り紙でお金を作ってみる、作ったお金でお買い物ごっこをしてみるという遊びの中でお金の興味を高める活動を行った。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・お金がなかったらどうなるという問いかけに対して、「困る」「物々交換になる」と答えていた。</p> <p>・お金以外に買い物で使うものではない、「電子マネー」「カード」「ipay」「スイカ」などの声があがった。</p> <p>・お金の製作では、数字を入れた後は、好きな動物やキャラクターを描いたり、玩具のお金を見ながら模倣して描いたりして集中して取り組んでいた。</p> <p>・お買い物ごっこでは、いくら出したらいいかわからず戸惑う児に対して、他児が教えてあげる様子もあった。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・問いかけに対して意見が出ない時は、噛み砕いて理解しやすいような質問に変えるようにした。</p> <p>・お財布を作りたいという意見もあったため、お金の製作が早く終わった児には折り紙でお財布を作るように促した。</p>

## ● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>お金への興味が高まり、普段の買い物で何気なく保護者が使うお金にも興味が増した様子があった。</p> <p>お金そのものをじっと観察して硬貨や紙幣の見目の違いを知ったり、お金以外にどんなものが買い物で使われるか意見を出し合ったりしたことで、ただお金を作ってみるのではなく、子どもたちなりにお金に対して考えて探究活動を行うことができた。</p>	<p>導入としての視覚教材の題材「わらしべちょうじゃ」は子ども達も理解しやすく、買い物ごっこにもつながったと思います。お金の価値が電子マネー等々により、意識や感覚が変化している時代にたいして、自分たちで、お金についての考えや意見を出し合えた事で、消費意識価値、興味へと広げて欲しいと思います。お金の探求していくことで、ご家族のお金に対する考え方や意識を家族と話し合いにもつながる事と思いました。</p>

